

ミヤコタナゴ

について

No.371

令和2年1月

関東平野では、湧水が流れる沼や池、小川でごく普通に見られたタナゴであり、茂原市にも広く分布していたと思われる。

ミヤコタナゴの魅力(特徴)

ミヤコタナゴはコイ科のタナゴの仲間で、他種のタナゴと同じ形態、習性をもっている。体長はヤリタナゴより小さく、40〜50mmくらい。外来種のタイリクバラタナゴほどではないが、平べったく、上から見るとモツゴなどと同じ棒状に見える。生殖シーズンになると、雄の鱗、特に尻鱗、腹鱗が、帯状に黒色、赤色、白色に色づき(婚姻色という)、水槽などで見ると実に美しい。

1994年には、種の保存法により国内希少野生動植物種(環境省のレッドリスト1A類という最も絶滅が心配される生き物)に指定されている。千葉県では、他にいすみ市、御宿町、勝浦市に生息している。1990年ごろの御宿町の、とある小さな橋の下を流れる小川で、群れを成して遊泳しているミヤコタナゴを、私は鮮明に覚えているが、そこも今では近接した土地が宅地化されて絶滅したのではないかと思われる。かつての

また産卵がユニークで、マツカサガイ、ドブガイ、ヨコハマシジラガイ等々の二枚貝の鰓に産卵する。養殖では、関東地方にはいないカワシンジュガイがよく利用されている。この産卵習性は、ホトトギスなどの托卵鳥と似ていて興味深い。この産卵戦略で、受精卵は外敵からしっかりと守られる。

茂原市にはミヤコタナゴ保護協議会があり、生息地の草刈などを行い、ミヤコタナゴが棲める環境になるよう、保護活動を行っている。

ミヤコタナゴの保護

将来的には棲めるところを増やし、天然記念物に指定しなくとも、ごく普通にミヤコタナゴが見られる環境にしていくことだと思ふ。そのことは、生き物たちがにぎわう自然へ、つまり生物多様性の自然へ復帰させていくことでもある。

今後ミヤコタナゴの保護に、非力な私ではあるが、関わればと思っている。



茂原市文化財審議会委員

大藪 健

文芸コーナー

奇跡の朝

晴れた清々しい朝
曇って憂鬱な朝
どしゃ降りの朝
いろいろな朝が来るけれど
目覚めた後は
だいたい
いつもと同じことをする

山本 明美

挨拶を交わし
掃除
洗濯
食事
生き物の世話をし
誰かと話し
天気が良ければ
散歩や買物に行き
好きな本を読む
明日の朝も
目覚めたら多分
いつもと
同じことをするだろう
それをしながら
心の中では今日は
昨日とは全く違う日
違う時を歩いている
自分に気付きながら

◎選評 斎藤正敏

いつもと同じような朝が来て、いつもと同じように日が暮れる。日々を生きる自分をみつめ生きる不思議を感じる作者です。

●偶数月は「俳句・短歌・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。
●投稿は楷書でお願いします。作品・氏名にふりがなをふってください。
※詩の原稿送付先(直接選者)へ 〒297-0032 茂原市東茂原7番地 斎藤正敏宛。
「広報もばらの詩」と朱書きしてください。原稿は30行以内でお願いします。

